

人生充実へヒント

JTフォーラムで2氏講演 岐阜市



JTフォーラムで、映画制作にかける思いを話す滝田洋二郎監督(左)と言葉の大切さを語る江上剛氏＝岐阜市長良福光、岐阜都ホテル



「ビジネスマンのた」テーマで語った江上さめの『幸福論』とのんは、師と仰ぐ井伏鱒

作家・江上剛さん「人脈づくりが大切」
滝田洋二郎監督「心に残る映画撮る」

「JTフォーラム」ひとときを、想う。――岐阜新聞・ぎふチャン主催、JT協賛が15日、岐阜市長良福光の岐阜都ホテルで開かれ、作家で日本ペンクラブ会員の江上剛さんと映画監督の滝田洋二郎さんが、約200人の聴衆に充実した人生を送るヒントを示唆した。(久松孝志)

二つの出会いや交流を紹介。銀行に就職する際、井伏から掛けられた「小説はいつでも書ける。大阪で銀行の仕事覚えなさい」との言葉を胸に、「銀行マンと小説家の人生を歩んできた」と振り返りつつ、「周りから掛けももらった何気ない言葉が人生を後押しし、

滝田監督は「映画と、その出会い」とのテーマでトークショー。初の一般映画「コミック

勇気を与えてくれた」と、実感を交えて言葉の力を強調した。
中高校からの生き方は「会社での肩書でなく、素のままの自分を評価してくれる人をつくる『貯人』(人脈づくり)が大切だ」と述べた。
滝田監督は「映画と、その出会い」とのテーマでトークショー。初の一般映画「コミック雑誌なんていらない」や「僕はみんな生きている」制作時のエピソードを紹介した。代表作「おくりびと」の制作は、納棺師のもとに出向き、生と死の際に関わる人間の所作や雰囲気、息遣いなどを感してから臨んだことを明かした。
「監督にとって映画とはこの問いには自分判断できないもの。やればやるほど分からなくなる」と即答。「ただ、一人でもいいから見た子どもの心に残り、映画監督になりたいと思ってくれればいい」と語った。